

平成 22 年 1 月 7 日

場所 大町市 大町合同庁舎
於 401・402 号会議室

「北アルプス山麓ブランド」について

参加者 小須田幸一所長、小澤敏雄副所長以下 8 名
会派議員・事務局 7 名
開 会 9 時 10 分
進 行 諏訪副政調会長
挨 拶 牛山会長
小須田北安曇地方事務所長



はじめに、小林文彦農政課長（普及センター所長）より「北アルプス山麓ブランド」の概要説明（目的、事業主体、取り組みの経過、おもな認定基準と認定品、認定品のPRと販売促進、今後の取り組みについて）轟商工観光建築課長より「北アルプス山麓ブランド体験ツアー」検討状況についての説明がありました。

目的

「北アルプス山麓ブランド」とは

世界に誇れる豊かな自然と清冽な水・空気がもたらす恵みから生み出される北アルプス山麓地域の農林水産物並びに加工品等の中で、特に優れた商品をブランド品として認定するとともに、県内外に広く情報発信することにより、農業振興はもとより、商業、観光業など地域経済の活性化を目指す。

認定品及び販売

平成 17 年に農業振興はもとより、商業、観光業等の地域経済の活性化を目指し組織が設立。検討会を重ね今日にいたる。現在、認定基準に則した 46 品がブランド商品と認定され地元の「道の駅」はじめ協力店等において販売されている。

また地域の四季に合わせて春夏秋冬ごとのお弁当も開発されている。

体験ツアーの検討状況

ブランド品の収穫、加工体験や食事、買い物等をメインとした体験ツアーの試行。地域の特色を生かした着地型の旅行商品として体験プログラム等の提供と 22 年度の展開。

<質疑応答>

議員からの質問

- 認定品の見直しについて→現行は3年ごとに見直しを実施
- 農業振興に与える影響はどうか？活性化につながっているのか？
- 認定品の売れ筋について、また今後の見通しについて
- 試行された体験ツアーの結果はどうだったのか。また商品として提供する時の価格について
- ブランド品の生産、販売、PRについて
- 新たな認定品が実際の「農」の中から生まれてきているのか。

質問に対しての応答

課題もたくさんある中で試行錯誤しながら農、商、観光業を基本とし、地元が元気になれるような取り組みの実現をめざします。
販売促進を図る手だてを模索しているところ。ブランド力向上への取り組み、流通ルートの確立、協力店との連携、PR、ツアー体験の商品化など地域経済の活性化をめざしてしっかり取り組んでいきます。

以上 10 時 40 分まで 1 時間 30 分の限られた中ではありましたが、充実した調査並びに意見交換ができました。

